

「千葉県県民活動推進計画（令和5～7年度）案」に対する
意見と県の考え方

千葉県環境生活部県民生活課

- 1 パブリックコメント実施期間 令和5年2月8日（水）～3月1日（水）
 2 意見提出者数（意見の延べ件数） 1人（2件）
 3 提出された意見の概要と県の考え方

御意見の概要	県の考え方
第4章 県民活動を取り巻く情勢と課題	
<p>1－（2）孤独・孤立の問題の深刻化</p> <p>内容があまりに淡泊、一面的で、データも「孤独感」のアンケート結果のみであり、「深刻化」と呼べる内容とはいえません。</p> <p>果たして「新型コロナウイルス感染症の拡大」との関連があるのか。あるとすればどのような点で変化が見られるか。</p> <p>また、その関連とは別に「社会的な孤独感・孤立」が深刻化しているのか。だとすればどのような背景があるか。以上の点を踏まえて記述してほしい。</p> <p>言うまでもなく、孤独と孤立は異なった概念であり、それぞれしっかり分析すべきではないでしょうか。「孤独感」は主観的な感情であり、必ずしも否定的な状況とはいえません。社会的な「孤立」については様々な事象が考えられます。いくつかデータを分析しながら、丁寧に説明すべきと考えます。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が親しい人との関係や地域・社会とのつながりにどのような影響を与えたのかについて明らかにするため、令和3年に国が実施した調査結果を掲載しました。</p> <p>また、孤独・孤立が深まっている社会的背景について追記しました。</p> <p>なお、課題の背景や現状分析については、内容が多岐にわたるため、主要内容のみを記載しています。</p>
<p>2－I－（1）県民活動の理解・参加</p> <p>冒頭に「県民活動に関心がある人、実際に活動している人の割合は共に4割台半ば。一方で、継続的に活動に参加している人は1割程度にすぎない。」とあるが、「すぎない」は不適切な表現である。「とどまっている」がよいのでは。</p> <p>「継続的に活動に参加」するまで至っていないわけで、条件や事情が変われば「継続的に」参加できる人たちが40%もいるということを前向きにとらえ、むしろ県は、条件整備や事情に応じて参加できるしくみ等を検討すべきではないでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり修正を行いました。</p> <p>なお、県では、継続的な活動につなげていくため、体験や活動の機会を提供するとともに、ボランティアの受け入れに関して市民活動団体等への支援を行うなど、各種取組を推進することとしています。</p>